祭祀日記

坤

へ 5
2192
2191
2

門へ利5
8/198

宮城県図書館

西蓮坊喜衆日記　坤

六月一日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二日

大雨

この日ゑ翠黄門にゆきしよ此方のことをおもひしさま
のこりてくれ雨をかきくもりて四五稍にかしハ
らにうつれ盛り移りうつろふまゝくのあらまさりて
けふきよしハ須もりもてうつろひゆくいのちつらう
何もうすくならろるゝ作りしとしもふる私の
けむりてきこえそのハきにこの人の思ひなう
一しこゝに善好の味をかしくもなう
糸のまハ色あるもて既せかうハゆきさしき
ささんるみむ曲りきた
弁此うちやせかうをいまさし瘦法師

二月

柳浦亭ニゆかしき訪ふつまに作れ既名なきやら
又あふむ作り須に古里の家ともいはまや
舊宅んとおもへそなかし一の便なれ方丹の
こゝろにて打出しきゝ訪て
此眺め哀をもて来る人に私を既の再
此日このかゝろをもちてゆかしく誹ニ
すめりそてやかし訪し来もあらきに庭
着ろ人々よしき海くにかひたなきをへ

又越舞 菊の長浜 好ちらし

あすかの河よりきたる菊水
こゝろ長も此おもひある座し

四日

この日大津の人しみおもふて行て湊のあかり
かうつけ非のむかし この浦に一夜の宿紙
むすひ給ひしを世に 明恵の大神かくそ
ありけんときゝしや ころきゝひのは神さとにおもへ玉
とかな〳〵 きこしんにかゝりうらくゝきまうてゝや
さゝりかよそし有ハこうにてえまのうる

かう看るうた社便の情ありて逢坂か
待るみえ家柳浦桐水そこころにおもひて
名所をかしいねるて一代まかれこのあら
きちりな推田の人しもとをひみつもて
こ手紙の歌仙すみかよふあらあらく本独娘
風なとなのつてこゝをさてよ丸るけくハ
きえ勝のありさまありてこゝしおひ来まる
みえまりきたら本緒のわし 隠さるみの
を憐ましくされ さりや此集あるへ両案
路の名所なまし かきろしの信て武蔵比

乃きさてよひあさきてなしこてみつ枝なす
みゆうしうもうらしらもかもかれて同の
さかし浮さらか人みかさへおみすみかおはれ
かしそもら着を因会ゑろのやゝみつく
ひあ川まりてその鋼かみつくしくまりか稚
わみ価の楽れハきみて国みかつらさけさ
ちさやきのかさもあしうそ行ら此価ハ永
四歳の人からしかこの界此あろより龍葉
のうたあるて彼を浴さ詠をわそハみ能か
まとおみかわまれわかまかうぬろなりし舞下

此中まちかむ世此ありさ後かれ
子孫の恩ゆうしれよむころをかれ

五日

仲津

此り竿水辺みはさあらしハみ録を潔しく
なつあらし此もすみもろきを稚く親かかく
以ひをろうとこゝろやまきおやみもく
みさき洲ておかろうしきみそなしきものかれと
ねもえろてよ今うりきてに出液む日ろう丑

[illegible]

[illegible]

六月

この[illegible]蓮坊[illegible]かれあるべきの侍を
いまさらなる[illegible]屋敷のかぶら
[illegible]の主侍[illegible]きよらを二
[illegible]のいる
[illegible]
[illegible]

[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

二月[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

影をあの瓢
炭かすとしてふるてふの瓢のはかりこうの瓢

和瓢ノ字ヲ一

泥蓮主人　道香

弔来テ吾寂寞ヲ　投合ル樂ミ昭々
雅曲長セハニ良ル槿ヲ一　要求シトニ五ル石ノ瓢ヲ一

七月

廿日ごろ伏のごとみたまの神あり服ぶくして

そのうつをかのひとるに感情まことあり
あさうる
鐘こもれるもあり釋のこ
こ月を小山田にかふ〳〵ふるあれさ〳〵
世人忘れあり〳〵みやまの秋〳〵風物の西流
ちかく〳〵きろう花かく〳〵みいそう秋〳〵
月はあるに沈るかさて
終夏のうつかよ〳〵月の宵

八日

この日仲清を招きて豊年の田みるとて
酒肴出だしたるに
原のうへ一面に青稲ふけ

九日

此日仲清を招きて豊年の田みるとて
酒肴出だしたるに
雲もなく晴て涼し　四雄渓まで梅雨
なる中秋の
雁の声聞こゆる指のあり

山路みよりもの思ひてみるを
花の色の
一やうにしれぬ
おくさらに
巖をあふぎて
雲の
菊のそのあと仲清宅蓮坊
波の

りよつるのにみ付そうち久作とり以へる者のこれ
ひろめ吟ふまゝにあらはしかるといふを見
新そ杯り国の小麦に餅あり是を麺
作るに饂飩人をなりて以ひろしめ始
出すよし この名ハう飩し新たに今者
是り傳つるへなつかしりかさまつりけれ

あるかし傳

饂飩 あかしかしといふものあるを干して
小麦粉 餅ありゆき 是をみ 訓のすなる人ハ辛き

あるはうちいかせけるの麺類の名ようしき
肌おろそくにいろゝ麺しきり新とし菓子に
よみかはりて百練千鍛して麺をあらんハ饅
頭の肌やいろかたちはてその味あらわ
僅ある菓子ひゃんむし 是ゑるは織の
かたちこゝそ練り新にころそその餡人
是そ名くむの饂飩そよみ饂飩へかして
それ名もと輪の山本み付てかうしきの
神の名のかたちうしそのみかけこれそ
こころえら 瀬川やしこさるに名を す川

ゆ一ゝ世をすりなるゝ日はあるこひ一
かゝんよあれつゝみ人を衣食のあさひを
むさゝりれ隠蓑彦れ服る一ゆ
世の人みもてをやさ世てこゝろのかゝ人る
一うやゝ世て庄上みおりて虱をひ祈る
さゝりすてはゝ世ゝゝゝゝ不上樹下
れ行ゐこをあ人れたのあ山の宮詣も紙ゝ
人ゝ有世をこをあ世て一面のま
ゆを消ふゝかゝ矢ゝゝゝゝ世日を
ゝ消純のゝゝせよゝ世をゝゝふよの

りあをあゝをゝ池をみゝむゝとの絶てきふ
すゝゝゝゝゝゝゝゝ物のゝとをいつれゝ
池ゝあ住をゝゆ一かゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
枝ゝあかゝゝてありかゝゝゝゝ生屋をあゝまる
ゝ世ゝゝ世ゝてゝひゝ人ゝゝこひてゝをゝん
ゝゝする人ゝゝをゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ
このゝゝひを池ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
何晏ゝゝ一池ゝゝゝゝゝ影も一世の孫ひゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

服おのそれ〳〵いをこのしたくさるまちの
ゆうなみ流るをくるや　みしらぬ

十日

ゆうあ降るをもうたはたはたはあり上家の
川をやとてるれとうやいとうものうきふうう
うちすかうちうち〳〵うあるのうちうれ今も墓
めやうみ川きうあるむかしもあるあて
高山やうあ降て小云ふ——

十一日

豊後国

山日日田みたさてそれあをあえたに有れる
かし〳〵弁ふ彩よりめうて山門のうち秋たた
さうれうあこのあうあ高沢ふ秋うと
ゆうあ——

十二日

月や月やうちうの暮れあう

風吹く

ちりとぢ〻くるを兼を隆む蓋こゝ仆
なるをへいるを てゝ千春春をふる

星仙亭

こゝ春やあらの山のこゝる 膳の上

香爐庵記

星仙亭あり亭北南ハ一ゝ青ちあり
山方一丈ばかりなん山内ハ三佛をあ座
かゝこゝ夫母のそ臭をまつりそをこゝる

ちりのそかをそのかゝちは面香爐やいふ
ものハ似を紙をかくゝあつけて佛形色亭ハ
あり 星仙を亭やゝ五千年をゝて佛を
はゝをゝく世をゝ形ハ ハ やいゝをを
出りてゝゝ見ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝあゝ見そのゝをを風雅ハをさていゝを
人ハまを紙をゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 老をゝ見紙舞
坊 ハ 亭ハ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ハ亭ゝ亭の ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
亭爐庵をゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

うらんやうくし

月こそやなを蓮葉 秀雄

山五段隙とつゝみたるとさしたるそれ
地八寸より八寸はかりあるとて投鍋曲はなと
つゝみ風雅のおもをうらしそれみの志ゝ
よしの菖蒲たうりとさ新しうそのうらしの
をうりみ風をうれて

菖蒲ゆ段隙をふれ面わし

十四日

四月十日あをふ京れうに蓮池あるて
一二輪を鉢にうしけられ和のうんものみ
そうふあるうあるうの江のまを保ちみ似をる
連京ナ六くをのくこの篇れみうりいくく
吉門の風流このひみ第しく

屋ひみをつゝみ猪あり蓮の蕚

山晩うらん沙和のあしうをもうりいうは
うりみあるうをを蛙のようしあひうをし
それ事も風雅のうろうしあるて蕚

おりけもまことにあまりの中のかれさ
ぬ路も悪茶ぶりんかゝる勝清朽の身みこた
てわすりふりのもちおをいろは作らんとかまれ
やろさかるはゆかし　支考

世の露にかゝるさやけし　百合坊

名月もちらんさぶ　墓士のあまらぬ　要捨

ふ沖あまみなかしのつれ
くの言葉もなくれ女房
うつ双かもれつやさ科く

十三夜月は前ありあかくおほ　地起

露つきも落て蓮のつぼみかれ　倫仙

十五日
畔丁亭
名月の秋風やこゝろ静かなりし

十六日
獨宵亭
さゝわや百の乱れにのかゝり　照
けふみなことなしの涼雲
見へ湖南の正ニ廣りかゝへ難所此

張殿よりおくりこされし文にて
其詞に
何かしやかしやしけるしの
はつかしらひなもいみおみ
やりし難きものがたりに
ありて難きをいふらんそれ
古き酒肴のまへ備へし 由ありき
その絵に書き主ありき
むかしの朝夜かれ消えて難儀
にいふは

毒むかしおもはれやう旅は宵月起
に酒売るものがたりやらして劉
をとかれしを
家にあらく 劉 にあふまじくす
みな言ふ伯よし此帝に語らく
遠く年をへし買ふからかく
卜程し
年かふて夜ふかく月見の額
ぬりしえむ月

一旨は宵月夜の句をいひたてける
くすの日には略五見の句法や
此指南とてもいふ事をしるへし
三日月夜の句のみ三日月にておか
いはれたるふかきは世の事まて不思儀なくし
みな月を見て我人の身にあて
思ふへし　然とも故事を不定哉
居見るに此外なる事はい満も
おもしく捕もほしく世の中は隠れけ
はなよりあやまれる俳人の讀人ハ

なき給しや
とりやこのふとうたるにこの花の乞
御し候人ちもの親ありみはおやも
あまとろうし花の菓の果をおたりまれ
凡りもの姓みは見え合鍵の日
雅も大物宗しねふしろとそれ
日の宮にも無くもうちかたまなり
まれしありまれ人うちとゆき
ぬはらここをはそし給ふ爲
業しありて人なし　寛永宵月翁

十七日

空晴の月は殊におもしかんさ
以降のかさみさしたるかちまつ
れとも
月の
星を風さへ
鏡ちかしに義村とらふ
ちまを

朱あ鈴を鶴あり星い春と
朱松ここのあちくく里あるをい
志鈴ちにを月をちちけ五ふを

ちまこちもを鈴を義村の鶴は
人をかやちにくかりをあちれ
ちのちあ宗あり云の月朱松
をのちには平折をて例の食間を
殺に鶴をほ蓮て心ちを
蓮人の表食やちにれ雲鶴
仲をちとりふちを藤のをふいちて表を
ちやかの三をちう例月のをを弟を
の二をほり帝をを表をを殺み
月を孤をを心あり藤を裏

[illegible]月のあかき夜

十八日

けふ鶏鳴雨ふるなかをてあけて[illegible]

[illegible]のかりのみ[illegible]仏[illegible]

二十日

けふ曲風亭ふまりるこのあるじいらめる

[illegible]にあるひとの[illegible]れを[illegible]

[illegible]あるじ

[illegible]やうの[illegible]

けふ[illegible]人[illegible]とりのもとより[illegible]

かるる[illegible]豊姿[illegible]諸の[illegible]

[illegible]世の[illegible]

[illegible]

人[illegible]の[illegible]や菖の花

九一日

可庭 京一 對前山

[illegible]れ[illegible]

けふ富[illegible]人[illegible]

ゑんハかり未様よ川なとなく事ハあるし
以なきり西寺村それ第五指にあるらの
かり時てはきく御論すらたおとろ人ハ
田様くしも是り嫁にもあるれそおとろく人
の田好不好といふを芸花のを雑るとに良
世にも浙り好不好あらん

まこと浙水雑を此世の夕すゞし　作者

此りなふし世ハ風雅のくらしあれを
て紫郎といふ人をはせ侍るて

旅人のみちらくきりぬるの草

九日　肥後国

此り小国やといふ所よみいてゝるそれ村を熊本湯
氏の家に宿れ是ハ風雅のよすかにおかれ
なふし　西国といふ京のこれゆかりの人を
おそとて独宿れめし　此ききうらきし処
いくみを出あるともる　今宵の西行にあるし
田佛浙をそをし　あるもの中しかりや立て人るれ嗚

へハ服のふくとゝ言やゝ
ゝ
この文字みかゝのゝ
御法をいとゝ
服部廉麿みむ
ゝ
此朝この文字をいゝて
らられまふ
為為氏みあつ

純あ雨こそ底すうら何か
爾なうらしかきゝ日て白海
六ゝしれら　　ハ九し
　　　　　　　　　如来坊
此も為問ゐ乃ち吉つ捫もる

遣阿之植ス　林畔
こゝ称の居ゆかりや言氏下ますと

十五　月
　然也
けり吹正るみつさろ是ハ近江の大津中より便
志ぬつるみそあやなしこの志れハ傳遁置
ものりむて好きとよそいふに國の意を称そ
よろ為なれるすを待ち行れ故江川の上
米つとハかりぬあるなりしされとみ落て
其あるまされ
荒れ名れ月え凉し　みあろ

此はな長水のかたをしるしたるはこの長
月まつの中さ枝きらしあるを一なを長
伊勢帳やうのものやうにかくしもさうらう
ものかうさ枝きらに有れそれの人や
蕉つの風雅みこうろはしゆうやて桃舐とう
いろ撰集とあるしうさうを母う桃
のこうやかんの人海のみめられそう桃
かんう枝しうくそしうくなりて始れ
一夏の始といふる話のつめやあしん
桃の実九月ときうぬきれ

十六日

宇士

国鷹寺

閑みるう始をや向て夕涼

十七日

八代

理曲亭

三明月や窓梅の始もとを日

露草
桜のあしかみて萱藤の佐奈加

七月朔日
この暁やかしろをたちて佐屋の方 河内路
棟祇 理曲ゟ雲 飛ひゆく知をかし 本取越川
篠ハらし 都々ね かさみ おもひやれ 志まをて
伊勢山ハきし おもひらしぬみやふのる方ハ
ワヶやうみ 陽衣 こさなして 伊勢乃参宮ゆき

わかれぬさりける 君が黒髪を行てやらんと ふ
前をとふらん あけさる みわ み乞 記わ我
きさらぎ人も らん我 をあるにあ我さる
我日若楼山みさし かりさる我え 白妙
こし みわろとさらん人のやしみいせの方
も恋し かりしを
よ稲の香やいせの朝りに二見
さより
さよりつきたかり行てこらんをけふ村の衣
しかり我さしなつりし たるまみそ 行我
けふ八つをめくりらの腰をめくり磯の松風も

[illegible]の事にすがりて[illegible]姫の風情一[illegible]に眠
をかゆ[illegible]ほかりせ
[illegible]の事や 鶯 跡つけて[illegible]の[illegible]

二日

作 教

叶り要阿[illegible]
て一[illegible]の[illegible]秋一[illegible]
[illegible]

[illegible]
秋も[illegible]二月[illegible]や[illegible]の[illegible]
[illegible]歌の[illegible]
[illegible]の風[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]寺

相の[illegible]

龍子新宅

[illegible]

四日

[illegible]

[illegible]

五日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一つとはかりハ孫の行風み吹かるる紅て紅
もろ〳〵千〳〵六十年を隔て生る新
石とうやりふの孫の多佐より高あるる
ちう〳〵きるう換寅吉吹の二代所門弟
もかるれるれるけれ面の中もぬけ
こるれるみてあるうきるるる〳〵無年
鶴ふのあるこのくみるるるはい
けけ口み風まちるる〳〵まるる月の時
まるるみるれるゆるるるるるはるめて
仕う曉の風もやる〳〵多潛るるきり五

きるるあ〳〵ちやあやいの御を帳ふけ硯
をおる〳〵仕るこの間れあるるもるるる
やよくのるるれ時あるてあるみりも
ちるる無ふふるるるるるるるるる
かるるるるるれ
秉れるあるるるる間の紅るる
るるるりるるはあるる行てこの風るあるる
ちるれて磯山るけみみるとかけるりある
心るれるるゆるるきるるるるるるるる
けるるるるるんるるあのゆるるるるぬ

百年以前迄今他人五ちゃくといふる婦人
の話に聞るゝ
この頃は新田の作人としてあるされ
山ゝけのかくて孫の為ちゃくあるもて地う
きたちゝんちゃくちゃうに屋敷の心に覚え可時
のゆゝはありて以前の例て作りて屋敷
はそこりちゃくのこれそこゝ人はけゝ
ね乱もちゝあるゝ人ちゃくれ変動ゆこて
ちゝさちゃくたいこひゝさみかゝちゃくと
ゆゝに人の人は例きちゃいちゃうゝかゝるとあ

ひゝれてちゝけれの新田やとかきれ事
脇もきゝの人かりゝちゃくそれかゝ詳を社
のもとちゃいあゝゝゝかゝ以きちゃゝ
ゆゝちゝりきちゃゝ作ちゃ世の人は風新ち
あちゃゝ人きゆゝ事ちゝちゃきて風俗一例き
かの人ちきゝ五人のきゝちゝ人あゝ作
地法きれきゝ地かゝちゝやて例法やんといれ
地かゝりのかゝに例法の作ちゃ士農工商は
ちゝ起以前武家の方例ちゃ例法はあゝゝ年
ちゝ武もちゃ西の人はちゝちゃちゝれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長崎

廿九日星京あやまれこのあらしハ浦の名来ル
ゆかりをしたてゆ西の風強み那ぶらて
長崎あ和七もちをを花みつくせををらな
のこせ申又これ地みありて酒みあをを者
みちこをに門下れ風流流ゆを発みつ沖ん
海福も船よもいをを月夜ゆ落

十月

くををのなあ一をりあつををれて山法みる
多法ををにのをを二万ゆ千りれ切徒をわや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十一日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

牡蠣豆腐を賞して和して人々とともにこれを入れ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

柿ぬし[illegible]

十二日

牡辛亭夜話

仰せ曰く人の身を生ずるのこと月日にて[illegible]
さしたる[illegible]なんかとかくに[illegible]
を論じ風雅は[illegible]
一生の[illegible]
何ぞ[illegible]

いつ紙おしかくん世のみくせのうち
おのれくしみるとさるこのの月うつ
こゝのしるおりくもあくしみる
なるのの月なのくなるしさく
俳諧をしぬくもいくるとあをしなを
いのを切屑をとるあはをしをも
おしさのをひあくをけしをくをまを
みをとををしをくん吾をかしをのしを
をくのをくるのくをくをくを
仰せ曰く自慢のるあるやは自慢のるハをを

自性ハ名なるへし

應くわしいなりとは雲の門

ちなみあるゝむさかりとさるる

詩に姑の雲ハ門を應とうるく起めも雲ハ

なりてなしのも推敲の二字なるしい世ハちり

雲ハ雲の情つきなりといふ意一次の意ハ

雲ハ情面をもてそれ次めをそいふ意なれ

勝ハ勝ハ名なるなり　應柿の義

猶ほ考ふるなり　文考

新四姑ハ熟柿をあれハ名ハ名なるなり

を池を深くなるく應柿ハ名をそなるく應なん

御文ハ情ハ文なりなるいふ一次の意ハ

文ハ情面をもてそれ次なるといふ意なれ

さ熟をなるなるなるなるなるなるなるなる

雲ハ名ハ名なるなるなるなるなるなる

自然のなるを吾ハなるなるなるなるなる

なるなるなるなるなるなるなるなるなる

あれなるなるなるなるなるなるなるなる

ハハ海なるなるなるなるなるなる雲ハ

なるなるなるなるなるなるなるなる

なるなるなるなるなるなるなるなる

それよりそのいとまりは高野をしつらひて西
善寺このゐなめ和尚おはしまして其四我も有坊四
吾中に有りあるを探れば四方のあるを人
山ゐをとふ四天王寺とこの柳を白樫土のちかれば
万の仏は妙法のうるはしきより行基菩薩
ありをの八九ちとそなにひろうてちの降
ちしぬきしなんかしとそなるあを降る
のあるをうるうるを法天王寺くさりや大仏
ぬあうらしをの行をうとををちかと
さ鉢の陰猿義めちに高の鳥ちの

中の服光をまの両の陰ちめをしをを
をしてををををををを地をを我をを地蔵
るをあるくしをを野をめををしてけちの
をのあるをいを鉢ををしをををををを
八九万仏をる風情をいををを足行をを
ドをを鉢八をよ大仏のあをるををやをめド
義をををををををををを
を鉢をの他行をを
を鞋ををを二三を人の腹中を
をを
ををををあをを行をんをを亀のをを

いつてうをうくあるをハあるかんくを
をれくみきしあるまハせをあるをのれくとこ
西条坊かのうを屋塚みあるうしけをこれくく
れはうをうひあるをてハ八重ををあるかをの花
のををてハ高条みををうをやけ伊勢のをけをう
けを条をををけてるわしををれをの話を
をうをををけふ西条坊の花のをれるを二十
年貴をりをを俳諧をををうかをうるや
初夜のるれ好をををてけふくをを世ををの文
をうをのををう ををうををくくるをあを

むおを歳旦みを世をとけふをををかを
をうん初条坊の人をををををを一世
ををみあををれをこのるを形容ををを
を人のるをを ををををりかを風情を風流
ををうんを俳諧をけををををををを
を条ををををを俳諧をけをををを
ををけてをけをををれをれくをを
ををけをををの白を酒をけを年ををを
人をけをうんをけを人をけをを世俗の人をけををを
ををを俳諧を一をるををををを俳を

中を去来洲といふ所を作り併せて四面の言
ふべきなれども人々あり[illegible]を湖水勝景
とぞいふなりけり　のすみうの秋をうしろ
も　毋彼ゆかりをたらずしてこの郎のうゆ
ず　歳号みをくみ[illegible]をけ感ずるに
風流をものつくるべき仮にあるものをば
さ秋を去来洲を共ゆ風雅をかるものせも
ゆゆ感ずるゆあへ[illegible]きれうそれ傷をいふる沈
ゆるへをるなを
向日門下に俳諧ゆ[illegible]あるやいかなるを

しもあるに[illegible]ゆ[illegible]
ゆるへ　それ[illegible]
のゆをいかるうんを[illegible]
あるを吾をしかるべし
卯七はさいふ人の俳諧をいふに四季の景物
辰彩ありる景ゆをるるおものい流行ゆ
るをるるるるあやうく流行ゆるるるるけ
をるるものをるる景ゆれをるるるるる俳
八辰彩をゆる秋をゆる景物をゆるるる
かるしるるるれ役をあゆるるるるて

所行一芝居やうなる八枝の風物
みるとやうなるものもあれつるきめてろトみ
独出とろくくるんう吾とかくいふてこの
刻えを失ふるやうなみかうきみかうーこと
後おけれ

後賦

西井坊うまれ賦ゆ後てを後賦
や影にこにきうれうの家の記
会みいのこ後赤後芝
賦みろふやや

玄来稿

あをうんみてるみ浦のあしさまみていつ
ひえ〳〵ひさんひさまみあちのあれあさ
とのこゝろひあつさてとうされ高へのゝ紫ひ
さきさけさきそめしもゝわ　やうやかうらうかと
いひいるくさきのわゝしみきゝぬを知弁坊
みとのなうやれ紙にくりさうやふのゝうそれく
弾つゝ板の賦ひめをいるをゝうゝ
いふつまやうそれ候悔さかうまうう

宗祇卓

朝霧のたゝ　あさなれみうた　麦

小須卓　病後

妙見ゆゝてそゝ　とゝ　麦

十六日

一水卓

仲春を詠ふ家みさく　みうう

ゝ月ハ行性尼の孫千五月を言れこの信ゝ

[illegible]

世みあるにたるものしるしとのハ
日しみうやしたくうくうたるく

咲うれたるたのの葉ぬきろうれ

十六日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十七日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一八日

筑後国

柳川

十九日

久留米

廿日西方寺みうまれの人のあるとされ
古跡[illegible]
[illegible]
[illegible]

十二日

筑前国

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けり屋前草山すゑより[illegible]ハ[illegible]稲[illegible]
[illegible]まいとこれらひおとをきそれこゝろをかけ
ゆ行[illegible]て

[illegible]さて清[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]熟稲小

廿七日

福岡

このり所二[illegible]室山[illegible]堂上山時をとけて
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]て屋敷(カラトリ)の
浦[illegible]もこゝ[illegible]ゆ[illegible]

[illegible]むゝ[illegible]
むゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

このり極るみいるこのうちハ世情の移ゝよ
体みをゝれて風月のゝ情もあをゝるし
むらいをゝやなるゝ山をゝ吹せみゝ
をゝけゝ折てくゝるすゝれ風を切るゝ仰をゝ
極楽のこゝ何らゝゝれ仏ん
るを秋方冨ゝゝゝ優柳の姿

八月 朔日

けゝ何をゝ病つを仏ゝゝれ長ハかゝ
を移らみゝゝ むこのゝれ知るもゝれ知の

くゝもかゝあつをきゝに沙雲仏ゝを
をゝてこゝ折を吹ゝにありきゝゝても心
あゝゝゝゝるゝをかし物もあるゝまるゝと
けゝゝ世のゝよこをあゝゝを拙き紙生れ
あゝゝもゝれあゝりちゝれをゝゝハ浮ん
ちゝ人のいつゝをゝけん
姿ゝの極丸ちゝゝ いゝ八ゝ
身長姿を何のゝのむん生の私
二ゝ方もかくゝゝゝ仏れゝ家のゝゝ
ゝにあゝゝをおゝゝゝゝゝゝゝゝハ

人ゐあるてなりしひやあんさうさま
ぜこころつうれもこころもはかなき世のさまゐ
ゐ一ぬるを是勝のかくゐなりもむさて心人い
ゐるてこうるるこうしくしもこうるくしくみなりて
人こうを方をゐもゐ例ゐゐ分ゐをありゐる

廿日

福岡法ゐこうる是勝ゐゐもむくこのちとを空ゐと
もあるこしゐ勝のゐるゐをるこうちとをかれ
ゐ風もゐゐもむこゐ陸のきちあるいゐこうし

きれ雲こうれをこしのゐをこしはをこゐて
あるこもこうゐれもるこれあるこゐのこういふゐ
ゐて是こうるこしふるすこうふをゐもる

又日

是勝ゐ的京ゐ的こうゐをゐこゐ雨ゐ法ま
ゐこゐ伝ゐゐゐ井て人こうもあるこまこしふ
て歯ゐこうゐこゐこうゐこうこうこうゐ次の朝
を心地つきて行こうきこゐるきこうこゐ
こゐゐこゐ分こうゐこうこうけこゐる人のかくこうこ
て行こうきゐこうをこうゐこて又こうゐあこんと

我が水訊うしいひしのあるうちらかをけを
あるーの田のかたこそ絵みうありきるさりや
吾拵さうしりうこの不あけ人くあるこ
さうのこうれをかこれあるれをうこうんこを
地のあーえあや仕しん一保帳おうこいるくも
あけーて年のうあもやらのしくこそれ
きれうれるこもうありうるるる

十一月

うう清れくくあいここ社こ小今うの稼庭あ高
家をらはれこの地あ鑑的沈水うれ西歌人

ありもあるやうこれ術ハ扁今表うこの
のくをうれあれうこれこいこうこ国れ
さうれりくあそうこあるこ茶紙更うう
同あこあさこさ社の舞ふふ日れさし
さうれやこあの地を社こうう人西稼庭のあう
けあこ徳れこあるれ書あいやあれうて
うに訳れやこあ行ううこの悪もうき
世のうこけうくし

十六日

今百八月れあ文一立小茶のも医

もしあるうちにとて紙をいうにとく矢を射んみ
ほとけのみこれまこととのたまふもまことにさるべ
きものなりやとて用もなきわが命をしまれを
福岡かやうなる仕てきものをもとめ
あらいとやうにかの風の秘めらるるをん
何ものもしんとのたまふやうにおぼえ
御傷の紙のもとにあるをまことにあるを
これ次のあるはおのれのまうすにはけて
もあるべきこのあやまりなりかうとうかの
ものとんせまとてもとのうたをかの

心まことにてもとうとてうるあるべしかのみの
さきに一条一条をもとうるあるさて竜そきん
ゆうして腹をいたさまむ和らをかく
あるさまにこそあるをまとて世みある
耳目ものうさとうるんみさるハ分をうるう
もれかせみを仕紙ものをとかの御傷をそふ
さまにさるべきものうるばあるべして十日
いうるそめうるうるにかうるうむ今ハうる
うるべしもこのハ人のおうれ自ふるものを
おもうるうるや

今宵をこそ人こゝろうつくしき世の月もこゝろやゝ
傾くほどゝかゝをけ〜さいかりつゝやうにて
こゝろ〜ゝりてゝ月のいろもあく〜おそ〜
さらぬ〜ぬあらし〜所〜いつる初ちとれ
こゝろ〜こゝろひかやちん

十六日

星崎大橋の人〜やうてこの頃人もあまと
はりつれて世ぬるにさ〜きやとゝ
ゝりゝりけりおそ〜宵のこゝろとくて
ゆく人こゝろもにまとるれら所〜きみと

を行記

十八日　雨天

西鶴老人高園の百韻をもひ唐貿称春
行集ゝりと考のさ〜こゝろるこれを所春
同ゆゝりこゝろ〜ゝりぬ春〜

九一日　晴天

今日をあ春もゝ〜花もかゝはもこゝ春愛こゝ
こゝりゝこゝ四海所ぬ春日日のくく
ゝりこゝろゝやこ〜記

十五日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水[illegible]亭

[illegible]

一[illegible]亭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この[illegible]を[illegible]て[illegible]人[illegible]みかゆ[illegible]く人の[illegible]
う[illegible]世の[illegible]を[illegible]行[illegible]時の[illegible]
[illegible]
の[illegible]

[illegible]

[illegible]月[illegible]日

有[illegible]
一[illegible]
の[illegible]

[illegible]

[illegible]家の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]やたんりをつくれこのあそひこたりてなりぬし

庵もものぬ和田原夢やあらのれ

庚辛さいふ

[illegible]あらうる

[illegible]孫義[illegible]やうの[illegible]

六月

[illegible]人々[illegible]ありさう[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]ん[illegible]ありて[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]園百[illegible]の感をの[illegible]

[illegible]をひらひてまるやや

[illegible]園[illegible]ありて[illegible]

七月

[illegible]れ[illegible]ありて流[illegible]

[illegible]

[illegible]

治船津

[illegible]

壇浦

[illegible]地を[illegible]の[illegible]軍[illegible]て[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]人[illegible]帯[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

屏風ぬりつけ絵をかくのくさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

重陽

[illegible]

世情の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いろ〳〵紙ちらしをはゝ行〳〵菓の使迄あ新て
これ四枚あけくゝあり也哥は山水風雅の
ゆこゝろあ紙やうの所に風雅のきこゝあ〳〵
さしんや

之孫戊寅之妹九月九日

のゆゑ之ゝ也